

春秋彩

Shunjusai

vol.60

熊本県立大学広報誌

2024
Spring



CONTENTS

第59回白亜祭(2023年11月11日・12日開催)

理事長退任のご挨拶	2
特集 2024ミス・インターナショナル日本代表 植田明依さん(2021年3月食健康科学科卒業)	3
研究活動紹介	7
大学の動き	8
後援会だより	9
活き活き元気種	10
おすすめの一冊・人事情報	11
熊本県立大学アーカイブズ	12

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。



理事長退任のご挨拶

熊本県立大学 理事長 白石 隆 Shiraiishi Takashi

みなさま、今年3月をもって、熊本県立大学理事長を退任いたします。6年間、学長をはじめとする教務、事務のみなさま、理事、経営会議委員、監事のみなさま、さらには蒲島知事をはじめとする県庁のみなさま、本当にいろんなかたちで支えていただき、ありがとうございました。

本学が熊本県の大学であり、県の将来を担う人たちを育てることがそのミッションだということはわかっておりましたが、「地域に生き、世界に伸びる」人を育てるとは具体的にどういうことか、6年間の「フィールド・ワーク」でずいぶん学びました。また、「産官学連携」がどれほど重要かも実感としてよくわかるようになりました。こういう学びの機会をいただいたことに心から感謝しております。

大学はいま、急速に変わりつつあります。しかし、大学のミッションが私たちの未来を担う人たちを育てること、そのために学生の皆さんに「(日本語の)読み書き、データサイエンス、英語」を基本とする広くしっかりした土台を身に付けてもらうことだということは変わりません。ぜひ、これからも、このミッションのために、また、次代を担う人たちのために、よろしくお願ひします。



変革の時代、新たな扉を開ける卒業生

挑戦する姿を通し、勇気や希望を

ミス・インターナショナル日本代表 植田 明依さん

グローバル化がますます進展し、さまざまなレベルで競争が増し、大きな変化の時代を迎えています。そんな変革の時代に、世界に向けて挑戦し続ける熊本県立大学の若き卒業生がいます。

昨年11月28日、東京都内で開催された「2024 ミス・インターナショナル日本代表

選出大会」で、卒業生で高校教員の植田明依さんが日本代表に選ばれました。「地域に生きる、世界に伸びる」という本学のスローガンを体現し、熊本の地から世界に向けて、新たな扉を開けようとする植田さん。「挑戦する姿を通してもっと多くの人に勇気や希望を与えたい」と抱負を語ります。

自分でリミットをつくらない！ “挑戦”が未来を引き寄せる



2024ミス・インターナショナル
日本代表
植田 明依

熊本県立大学 学長
堤 裕昭

「2024ミス・インターナショナル日本代表」に選ばれた植田明依さんは宇土市の出身で、2021年3月に環境共生学部食健康科学科(現・環境共生学部環境共生学科食健康環境学専攻)を卒業。熊本県内の高校で家庭科教員として働きながらミスコンへ挑戦し、教員とモデル活動を両立させています。この春には一旦教員を退職し、世界大会に向けて準備を進める予定です。

生徒に“挑む姿”を見せたかった

学長 まずは、おめでとございます。ミス・インターナショナル日本代表に選ばれたときのお気持ちは？

植田 ありがとうございます。素直にとてもうれしかったです。それと同時に、長い間切磋琢磨してきた仲間たちの思いを背負う覚悟も芽生えました。

学長 切磋琢磨してきた仲間というのは？

植田 日本大会に出場したファイナリストの皆さんです。書類審査を通過した人を対象にオーディションが開催され、日本大会への出場者32人が選出されました。そのメンバーと共に、9月から東京で実施された「ビューティーキャンプ」というセミナーに参加し、ウォーキングやスピーチのレッスン、先輩の特別講話などを受けることができました。私は教員の仕事があるので、約2カ月の間、週末に熊本から通っていました。

学長 それは大変でしたね。でも自分磨きは自分次第ですからね。

植田 そうですね。後で調べたら、東京と熊本の往復が16回に及

んでいました。熊本でも、個人的に体のケアやウォーキングレッスンを受けて準備をしていました。

学長 ミス・インターナショナルに挑戦するきっかけは何だったのですか？

植田 勤務先の高校で、生徒から「先生、モデルになったらどうですか？」と言われたとき、「無理だよ～」と軽く受け流してしまったんです。それが自分の中でとても悲しくて、教員もやりたかったのですが、以前からモデルなどの活動もやってみたいと思っていましたから。



在学中に講義を受けたことのある講義室で

生徒たちが頑張っているのに、教壇に立つ私が自分の可能性に蓋をするのは良くない、変わりたいと思っていたとき、「ミス・クマモトに出てみないか？」と声をかけていただきました。2023ミス・クマモトに選ばれた後、挑戦する姿を通してもっと多くの人に勇気や希望を与えたいという気持ちが高まり、ミス・インターナショナルへの出場を決めました。

学長 お兄さんは、ベルギーのサッカーチームにも所属していたJリーガーの植田直通選手と聞きましたが、その影響もあるのですか？

植田 やりたいことに挑戦する兄に影響された部分もありますが、やはり生徒たちと過ごしてきた時間が、私の背中を一番押ししてくれましたね。



写真左は、大津高校在籍中、キャプテンを務めていたバスケットボール部のユニフォーム姿

写真下は、幼少期の植田さん



学ぶことを諦めなかった大学生活

学長 植田さんのニュースを聞いたときは、「うちの卒業生が!？」と大変驚きました。熊本で生まれ育って、管理栄養士の資格を取り、家庭科教員として働いていると聞いて、さらに驚きました。先生方にお尋ねしたら、「在学中はリーダー的なまとめ役だった」そうですね。学生時代はどうでしたか？ 食の分野は、かなり勉強しなければならなかったと思いますが。

植田 私は幼い頃からバスケットボールをしていて、高校も体育コースでした。大学は推薦入学でし、基礎しか勉強していなかったため、入学当初は講義についていくことができず泣きながら授業を受けていました。

学長 食に関連する科目は、生物学、化学が分からなかったら苦労しますよね。

植田 はい、大変でした。でも周りに同じ資格の取得を目指している友人が多かったので、一緒に頑張ることができました。

学長 スポーツをやっていたことで、精神も鍛えられていたからじゃないですか？

植田 それもありますね。

学長 今持っている資格は、管理栄養士と家庭科教諭の免許ですよ？

植田 はい。それと栄養教諭の免許を持っています。

学長 学生時代は、アルバイトもやっていました？

植田 一時期やっていましたが、辞めて勉強に力を注ぐことにしました。

学長 その時間が、植田さんの今をつくり上げたのだと思います。「少年老い易く、学成り難し」です。時間は取り戻せませんから。私は67歳にもなるのに、いまだに学問を追いかけいています(笑)。

人間力が問われるグローバル社会

学長 ところで、世界大会はどこで開催されるのですか？

植田 東京都内で開催されます。

学長 日本での開催ですか！ それはプレッシャーですね。

植田 でも、大会前の2週間は皆で共同生活を送るので、日本の良さをPRできますし、応援にも来てもらいやすいので嬉しいです。

学長 植田さんは食に詳しいから、日本の食べ物についてもPRできるのでは？

植田 そうですね、日本独自の食文化についても伝えたいと思います。

学長 食べることは生活の基本ですから、その知識があるのは素晴らしいこと。大会では、教養的、内面的な点が評価されるんですよ？ つい期待してしまいます。

植田 教養的、内面的な点は大切ですね。しかし、大会期間中のコミュニケーションはすべて英語になるので今勉強しているところです。

学長 ぜひ英語は頑張ってください。県立大学では、学生のTOEICの受験料を支援して、英語力のアップを促していますが、学生たちには折に触れて「英語を学びなさい」と伝えていますが、学びを強制したくはない。自らやる動機や向上心がないと、なかなか上達しませんから。しかし先輩が英語でスピーチをする姿を見たら、感化される学生が出てくるかもしれません。

植田 学生の皆さんに刺激を与えられるよう、頑張ります。

学長 この大学に通って良かったことや、今役立っていることはありますか？

植田 管理栄養士の資格を取ったこと、4年間学んだこと、すべてですね。思い描いていた学生生活とは違って、楽しいというより

は大変なことの方が多かったのですが、今は勉強で苦労して良かったと思います。人生で国家資格を取る機会はそうありませんし、皆で頑張れましたし。

学長 在学中は松本直幸先生の研究室だったそうですね。何を研究していたのですか？

植田 運動生理学です。運動したときに体の中がどう動いているか、乳酸の測定などを行っていました。個人では、睡眠と運動の関連性について研究していました。もともと、スポーツ栄養士になりたかったです。この大学も、松本先生の研究室に入りたくて選びました。

学長 植田さん自身は、自分をどんな学生だったと思いますか？

植田 先生方や友人を頼って、とにかく勉強に時間を費やした学生でした。またクラス委員を務め、学園祭では食品販売の運営にも携わっているいろいろな経験ができました。

誰もが可能性の扉を開けられる！

学長 後輩へのメッセージはありますか？

植田 一番伝えたいことは、「年齢や環境に関わらず、自分次第いつでも人生は切り開ける」ということ。自分の可能性を信じ限界に蓋をせず、いろいろなことに挑戦してほしいです。

学長 人は自分で限界をつくってしまいますからね。

植田 私の場合、教員にもなりたかったので就職しましたが、「もう就職したし、年齢も年齢だし」と、他のことを諦めているところがありました。でも今回のような挑戦をする中で、そんな諦めは必要ないと感じました。

学長 そうです、必要ありません。この大学では、英語を学ぶことに加えて、データサイエンスの科目を必修にしています。文系の学生が統計を学ぶのは大変ですが、必要最低限理解しておいた方がいい。今勉強したら、きっと理解できるようになります。私自身は、必要に迫られて英語を勉強しました。しばらくは全然進歩がないと感じていましたが、ある日突然理解できるようになりました。皆さんも、諦めずに続けてみてください。

植田 私も諦めずに勉強します。

学長 世界大会への意気込みはいかがですか？

植田 優勝するために、しっかりと準備をしていきます。また、日本での開催ですので、日本の良さをたくさんの人たちに知ってもらいたいと思っています。

学長 日本は、他のアジアの国とは違う珍しい染色体の変異パターンがあると言われています。遺伝子解析の面から考えると、日本独特の感覚やセンスがあるのかもしれませんが。島国であることも、二千年、三千年の歴史を支えている理由のひとつです。世界大会に向けて、英語のスキルアップの他にどういった準備をするのでしょうか？

植田 年間を通して茶道や華道を習い、日本の歴史や文化についても学んでいきます。またウォーキングやスピーチのレッスンも続けていきます。大会では、民族衣装の審査もあるので、そちらもどんなものにしようかと思案中です。

学長 着物ですか？

植田 はい。世界各国のミスが、さまざまなテーマで華やかに民族衣装を着こなしますので、私も日本の良さを出しながら、よりアピールできるように工夫できればと思います。

チャンスを生かして、その先へ

学長 今後の活動拠点は東京ですか？

植田 世界大会が11月に開催されますので、4月から東京で準備を進める予定です。

学長 家庭科教員との両立についてはどうですか？

植田 今後も教育に携わりたい気持ちはありますが、せつかくこのようなチャンスをいただいたので、教員を一旦退職して世界大会の準備に集中します。私の挑戦に協力していただいた職場の方々には、本当に感謝しています。もともとスポーツ栄養学について学びたかったので、東京ではその勉強もする予定です。それをまた教育現場で還元できたらいいなと考えています。高校では「私もがんばろうと思いました」と声をかけてくれた生徒がいて、自分の挑戦から何か伝わっているのかなと感じているところです。最近は、「何歳になっても、やりたいことがあるなら挑戦していいんだよ」と伝えるようにしています。

学長 あまりプレッシャーをかけてはいけません(笑)、大学の誇りです。頑張ってください。在学生や卒業生が輝いてくれるのはうれしい限りです。結果は後で付いてくること。一生懸命やるのが大事です。

植田 はい。挑戦の過程に意味があると思っているので頑張ります。

学長 この経験ができるのは、日本であなたただ一人です。せつかくですから、たくさん楽しんでください。

植田 はい、楽しみです。そして大会でも結果を残していきます！



「2024ミス・インターナショナル日本代表」のたすきを着けて、提学長と並ぶ植田さん

文法の「なぜ？」を明らかにする

私は中学や高校で英文法を習っていて、いつも「なぜそうしなくてはならないのか」と思っていました。“You are a student.”の疑問文は“Are you a student?”です。なるほど、主語と動詞をひっくり返せばいいんですね？では“He plays baseball.”の疑問文は？“Does he play baseball?”です。え？“Plays he baseball?”じゃないの？と思ったものです。

そんな学生だったものですから、大学で「理由が説明できる」と言われた時は衝撃を受けました。そして気づけば、「英語学」の道に進んでおりました。私たちの研究は、ある壮大な仮説を基に行われています。それは、「世界中の言語がある程度同じ言語システムを共有している」というものです。一見そんなわけなさそうですが、考えてみるとむしろそう考える方が自然かもしれません。まず、子供の言語習得能力は正に超人的です。別に文法を教えるわけでもないのに、ある日突然話し始めます。このことは、生まれながらにある程度言語システムのもののようなものが備わっていることを示唆しています。しかも日本人同士の子供でも、英語圏で生まれ育てば話すのは英語です。つまり人は、遺伝と関係なくすべての言語を母語にできるのです。全言語に共通する言語システムを「普遍文法」と呼んでいます。これが実在する可能性も感じられるのではないのでしょうか。

「英語学」面白いですよ！

英語学をやっていると、ことばの奥深さに気付くこ

とができます。以下の英文を読んでみてください。

- (1) a. John knocked on the door twice intentionally.
- b. John knocked on the door intentionally twice.

(1a)と(1b)では、twiceとintentionallyの語順が違います。(1a)では、「コンコン」という2回ノックを意図的に1度行ったという解釈になります。これに対し(1b)では、意図的なノックを間を空けて2度行ったという解釈になります。この違い、どこから来るのでしょうか？また更に不思議なのは以下のデータです。

- (2) a. John twice intentionally knocked on the door.
- b. John intentionally twice knocked on the door.

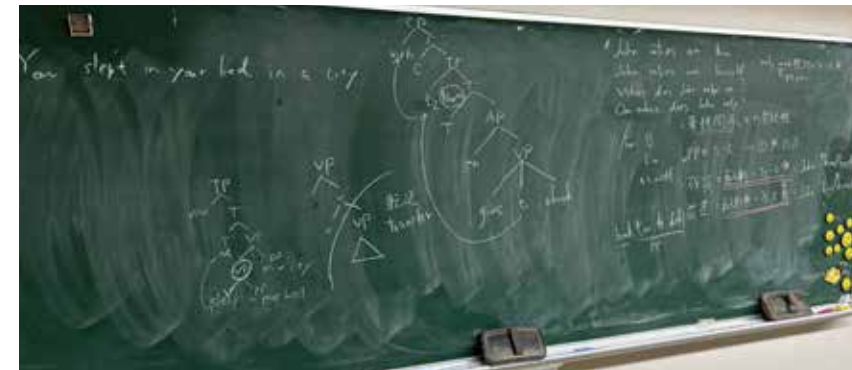
twiceとintentionallyを前に持ってきたものですが、この2語の語順に着目すると(1a)と(2a)、(1b)と(2b)がそれぞれ同じです。しかし解釈がどうなるかという、(1a)と(2b)、(1b)と(2a)がそれぞれ同じになりませう。どうしてこのようなことが起こるのでしょう？

紙面の都合で詳しい説明はできませんが、このようなことばの「なぜ？」に答える研究をしています。研究活動や講義を通じて、ことばの奥深さやおもしろさを伝えていきたいと考えています。

プロフィール

九州大学大学院人文科学府博士課程修了。博士(文学)。2023年4月より本学勤務。

助 教 員
文学部英語英米文学科
萱嶋 崇



(上) 英語学に関する講義の一コマ (下) 英語英米文学科の学生と留学生の阿蘇ツアーを引率

大学の動き

国際シンポジウム2023「シリコンアイランドのための人材育成」開催！



2023年11月24日(金)に熊本城ホールにて『熊本県立大学 国際シンポジウム2023「シリコンアイランドのための人材育成」』を開催しました。基調講演では、台湾総統府最高顧問の蕭新煌(マイケル・シャオ)様、内閣府総合科学技術・イノベーション会議議員の上山隆大様よりお話しいただきました。パネルディスカッションでは、パネリ

ストとしてアジア開発銀行研究所所長の園部哲史様、櫻井精技株式会社代表取締役の櫻井一郎様、本田技研工業株式会社熊本製作所所長の島添正規様、本学総合管理学部の飯村教授に加え、コメンテーターとして基調講演のシャオ様と上山様にもご登壇いただき、本学の白石理事長がコーディネーターを務めました。

大学の地域貢献度「学生・住民」分野でトップ10入り ～日経グローバル「大学の地域貢献度調査2023」～

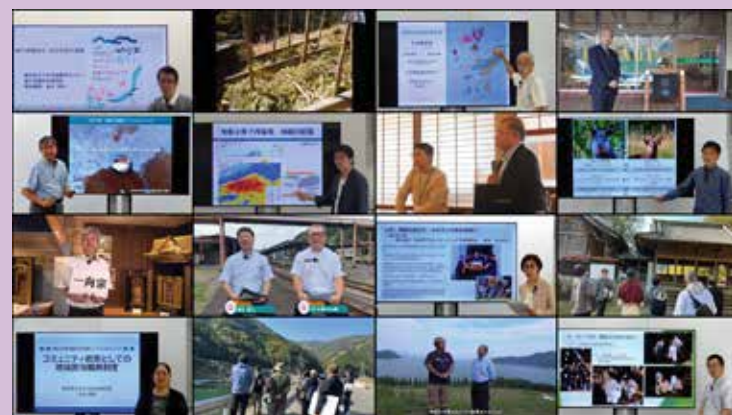
「学生・住民」分野ランキング

順位	大学名	国公私
1	名古屋市立大学	公立
2	鹿児島大学	国立
3	徳島大学	国立
4	信州大学	国立
5	島根大学	国立
6	愛媛大学	国立
7	大阪公立大学	公立
8	群馬大学	国立
9	山口大学	国立
10	熊本県立大学	公立

【日経グローバル471号掲載】
2023.11.6発行

日本経済新聞社『日経グローバル』が実施した「大学の地域貢献度調査2023」において、地域住民との交流や協力について大学や学生がどのように関わっているかを評価する「学生・住民」分野で全国10位/(518大学)にランクインしました。

令和2年7月豪雨で被災した球磨川流域の復興・再生を支援する無料オンライン特別講座「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」など、本学の地域に根差した取組が高く評価されたものと考えます。



【令和5年度球磨川流域圏バーチャルキャンパスの模様(13講座+現地ツアー)】

「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」は令和6年度も開講予定です。多彩な講師陣が、流域の歴史や文化、環境、防災など幅広いテーマで流域の魅力や復興する今を伝えます。

受講生の募集は令和6年7月からWEBサイト「地域ラブラトリー」で開始予定です。たくさんのご応募をお待ちしています。

WEBサイト
「地域ラブラトリー」は
こちら→



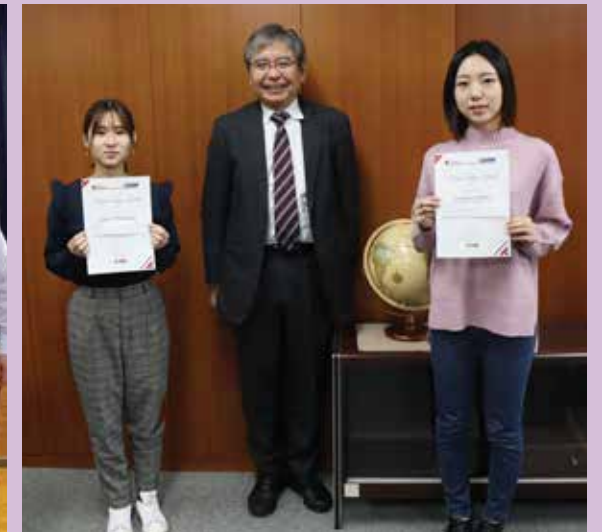
もやいとスーパーGlobal認定第一期生誕生！

令和2年度から開始したもやいとグローバル育成プログラムで、文学部英語英米文学科4年加治木紗和子さん、東莉乃さん、総合管理学部総合管理学科4年徳永咲希さん、森涼桜さんの4名の学生がもやいとスーパーGlobal第一期生として認定を受けました。4名の学生たちは、語学教育科目と国際

教育科目の体系的な学びを経て、グローバル実践活動として海外インターンシップ活動を経験し、さらにはスーパーGlobal認定要件のTOEIC®730点以上を取得、学内外での国際交流活動への参加が評価されました。

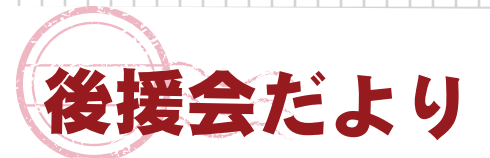


令和5年10月授与式。左から鈴木副学長、東莉乃さん、加治木紗和子さん、レイヴィン国際教育交流センター長



令和6年1月授与式。左から徳永咲希さん、堤学長、森涼桜さん

就職活動をはじめ、多彩に学生をサポート



後援会主催の共同自主研究

学生の自主性・創造性を育て、社会・地域との関わりを深めるため、学生グループが自らの問題意識に基づき企画した研究プランを募集し、発想の斬新さ、社会貢献度等の観点から有望・有益と考えられる研究活動に対して費用を助成しています。平成16年度(2004年度)に始まり今回(令和5年度)20回目の募集を募り9グループの採用を決定しました。過去には、平成28年(2016年)4月に発生した熊本地震の記憶をとどめるため、熊本県の復興応援事業と連携して、熊本地震震災遺構を紹介するスマートフォン用アプリを開発し、地震からの創造的復興を後押しした研究グループもありました。

これからも学生のみなさんの研究意欲を支えていきます。



※新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。まだ未入会の方は、充実した学生生活を送るためにも後援会事業をご理解いただき、是非ご加入ください。年次途中であっても随時入会を受け付けております。

《就職対策事業》

- 就職対策講座(公務員試験対策)の助成、資格取得及び講座受講等助成 他
- 就職セミナー・各学部による就職支援事業・在学生就職アドバイザー配置支援、TOEIC® IP学内試験への実施支援、学内合同企業説明会への助成、就職・進学用写真代助成、保護者用就職ガイドブック作成配付

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、インカレ出場助成、全国大会等出場助成 他
- キャンパス活動支援、学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、食育支援(野菜スープ提供)、インフルエンザ予防接種費用助成 他
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 他

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援、国際交流事業助成 他

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インターゼミナール大会等への参加助成 他
- 卒業式のガウン貸与、記念品贈呈 他

活き活き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



総合管理学部 総合管理学科 松本千晴研究室 代表者 横手 大翔(総合管理学部総合管理学科 3年)

盲導犬をテーマにしたゼミ活動

総合管理学部の松本千晴ゼミは、「住民がいきいきと暮らせる地域をつくる」をテーマに活動しています。私達は、子ども、障がい者、高齢者など、世代や立場を問わず、幅広い方々と共に活動して地域に貢献することを目指しています。今年度の3年生は、熊本県の若者の自殺予防に関するプロジェクトである「あいプロジェクト」、高齢者向けスマホ講座、盲導犬に関する活動などに取り組んでいます。

今回は、「盲導犬に関する活動」についてご紹介します。具体的な活動は、大学内への盲導犬募金箱の設置及び盲導犬を題材とした小学生向けのすごろくの作成です。

現在、全国では836頭の盲導犬が活躍しています(令和5年3月31日時点)。しかし、熊本県の盲導犬の数は全国ワースト3位の5頭で、非常に少ない現状にあります。これが影響し、熊本県内で盲導犬を目にする機会は非常に少なく、盲導犬に対する理解が乏しい(見たことがない、出会った際の関わり方が分からない、盲導犬の一生を知らないなど)のではと考えました。この状況を打破するために、松本研究室から情報を発信し、盲導犬を知るきっかけを多くの人に提供したいと思い、この活動の開始に至りました。

盲導犬の育成には数百万円という多額のお金がかかり、その資金の大半は寄付で占められています。視覚障がい者が自立した生活を送るには盲導犬は必要不可欠であり、盲導犬の育成に微力ながら貢献したいという思いで学内に募金箱を設置しました。2023年末時点で、6,441円の募金をいただいております。いただいた募金は松本ゼミで責任をもって、九州盲導犬協会に寄付する予定です。ぜひ今後も皆様のご協力よろしくお願い致します。

すごろくについては、九州盲導犬協会監修のもと、「今後の人生

において有益となる知識を提供する」「盲導犬の飼育に関するボランティア(パピーウォーカー、繁殖犬・キャリアチェンジ・引退犬各ボランティア)について知ってもらう」「地域において異なるニーズを持つ人と生きることへの理解を深めてもらう」ことを目的とし、小学生の好奇心旺盛で何事にも興味を示してくれる特性に着目して作成しました。すごろくで楽しく遊んでもらい、得た知識を身近な人に伝えてもらうことで正しい知識の広まりを期待しています。



大学内に設置している募金箱



県内小学生向けのすごろく(生涯から引退まで時系列になっています)

以上のような活動により盲導犬の育成・認知度の向上に寄与し、社会において盲導犬が当たり前の存在になることを願っています。

お一冊

マーケティングの革新

レビット、セオドア 著/土岐 坤 訳

出版社：ダイヤモンド社 出版年：2006年
ISBN-13:978-4478502655



総合管理学部
総合管理学科
教授

丸山 泰

マーケティングって何から始めたらいいの？そもそもマーケティングとは何？と思っている方にお勧めしたいのが、この「マーケティングの革新」です。広告宣伝、販売促進、商品企画、プロモーションetc. これらはもちろんマーケティングの大事な手段、手法です。しかし、そもそもマーケティングを考えるべき本質的な理由や意義は、手段や手法からでは分かりません。

本書は、商品やサービスとお客様との関わりや意味を問う事、「我々がお客様に提供しているものは、本当のところ何なのか？」を問う事こそ、マーケティングの本質であると主張しています。大企業が足元の事柄や利益に囚われる”近視眼”に陥る事で、世の中や顧客の変化を見失い、その力を落としていく事例などを具体的に紹介しながら、マーケティング的な視点や視座を教えてください。レビット氏が1960年(私が生まれた年)に書いた論文を基にした本ですが、現代でも全く色褪せず、新しい気付きを与えてくれます。

技術系で研究員としてメーカーに就職した私に、マーケティングの道へ進む扉を開いてくれた、思い出深い本です。

人事情報

●採用 (令和6年4月1日付)

[環境共生学部]
助手 境田 奈津子

[共通教育センター]
准教授 森 裕生
准教授 堀 一輝

●昇任 (令和6年4月1日付)

[文学部]
准教授 吉田 希依

●退職 (令和6年3月31日付)

[総合管理学部]
准教授 三田 知実
准教授 藤井 資子

[共通教育センター]
教授 津曲 隆

●令和6年度 学長等について

[学長]
堤 裕昭

[副学長]
鈴木 元

[文学部長]
村尾 治彦

[環境共生学部長]
白土 英樹

[総合管理学部長]
宮園 博光

[共通教育センター長]
山田 俊

[文学研究科長]
米谷 隆史

[環境共生学研究科長]
柴田 祐

[アドミニストレーション研究科長]
澤田 道夫

[図書館長]
江崎 一朗

[地域・研究連携センター長]
石橋 康弘

[デジタルイノベーション推進センター長]
飯村 伊智郎

[国際教育交流センター長]
モロー ジェフリー スチュワート

[キャリアセンター長]
友寄 博子

[保健センター長]
下田 誠也



3冊書影



蔵書印



見返し・巻頭

井沢蟠龍著『大和女訓』

(享保5年〈1720〉、京都茨城多左衛門刊) 3巻3冊 熊本県立大学文学部蔵

江戸時代から近代まで夥しい種類が行われた女訓書
の一種。女性を対象に教訓する生活指南書で、封建身分
社会で最重視される「家」の存続を前提として、それに
貢献する、あるべき女性の姿が綴られる。

自序によれば、既刊の女訓書が和漢の貞婦の伝を中心とするのに対し、本書は、日本の女子たるもの、天照大神(女神)以下の神祇を信仰すべきという主張に基づく点に特色があるとする。

著者井沢蟠龍(寛文8年〈1668〉～享保15年〈1730〉、名は長秀)は鉄砲頭を勤めた熊本藩士。和漢の学に優れるが、特に山崎闇斎に学んだ神道が彼の思想・教養の礎

となっている。およそ70種に及ぶ著作を残し、熊本
の歴史・地理に係るもの(概ね写本)のほか、巷間に流布す
る説話・伝説の真偽を考証する『こうえきぞくせつべん広益俗説弁』(正徳5年
〈1715〉刊)や言語・神道についての出版物もあり、内容
は多岐にわたる。郷土の偉人であるとともに、元禄文化
を代表する知識人の一人と言ってよいだろう。

なお、蔵書印「上妻/家蔵」は、熊本出身の植物学者・
郷土史家である上妻博之こうづまひろゆきによるもので、その旧蔵書の一
部は「上妻文庫」として本学図書館に収蔵されている。
また新たにその旧蔵書の一部が本学に蔵されたこ
とは誠に意義深いと言える。

解説：熊本県立大学文学部日本語日本文学科准教授 真島 望

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502 (住所記載不要)
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096 (383) 2929 (代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>